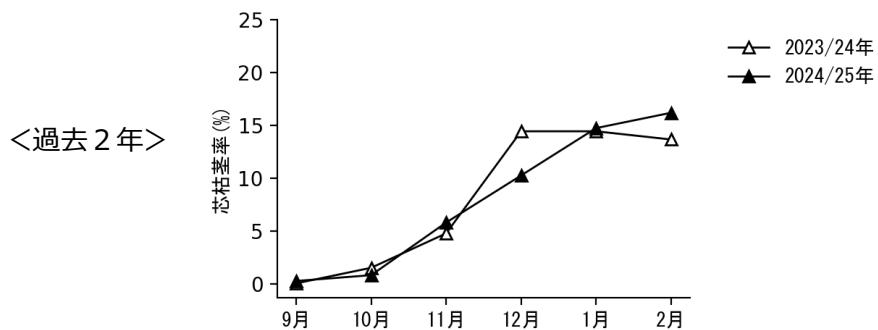
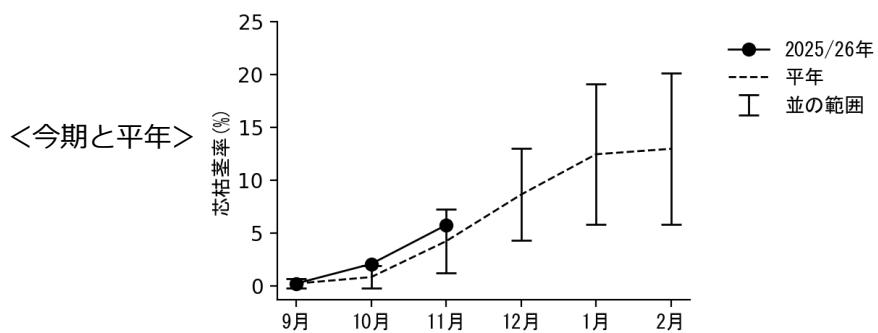


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	(1) メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	11 月からの増減傾向	↗		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

芯枯茎率の推移 (夏植え)



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ（95%）、イネヨトウ（5%）
- ・発生ほ場率90.0%（平年：77.3%）※一部ほ場で多発

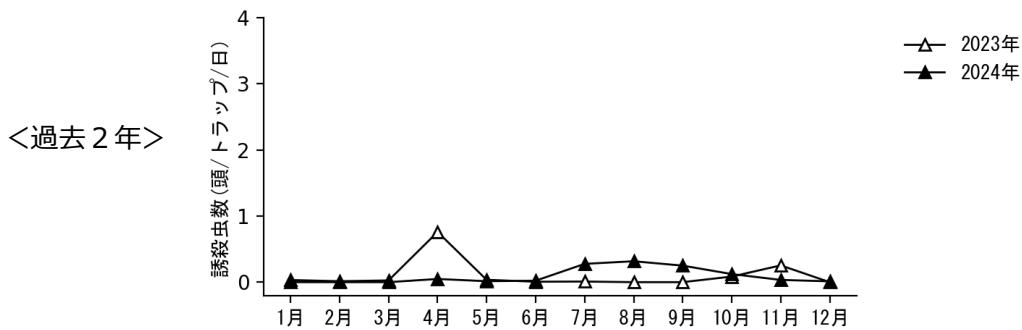
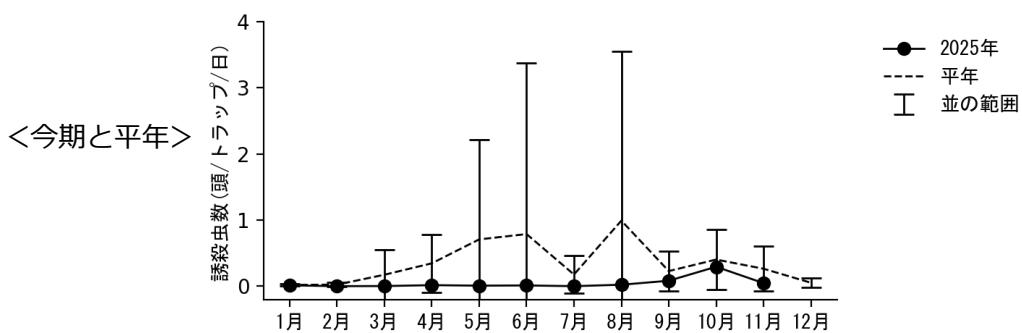
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壤害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	11 月の発生量（平年比）		並	
予 報	11 月からの増減傾向		↓	
	12 月の発生量（平年比）		並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



- ・発生施設率60.0% (平年 : 76.2%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

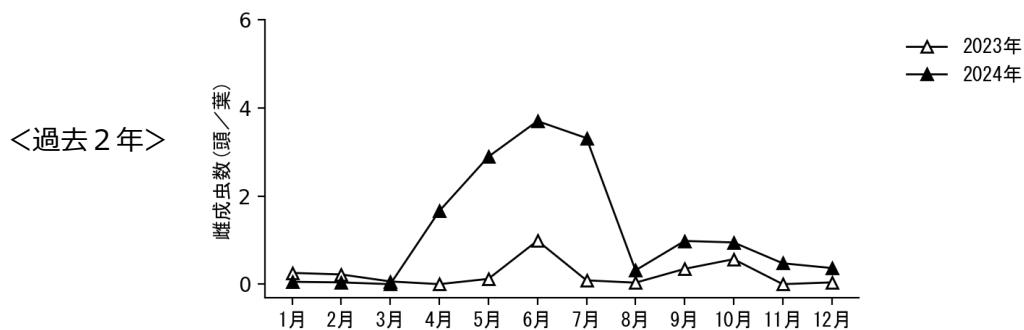
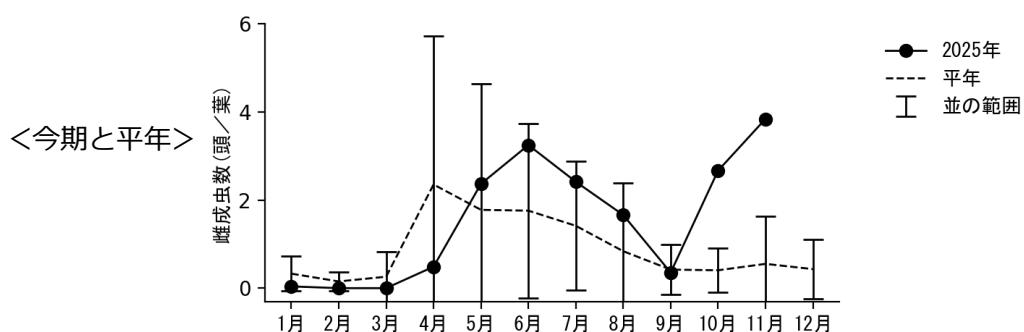


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	11月の発生量（平年比）	多		
予報	11月からの増減傾向	→	マンゴーツメハダニ	
12月の発生量（平年比）		多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：マンゴーツメハダニ、シュレイツメハダニ
- ・発生施設率100%（平年：34.0%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。

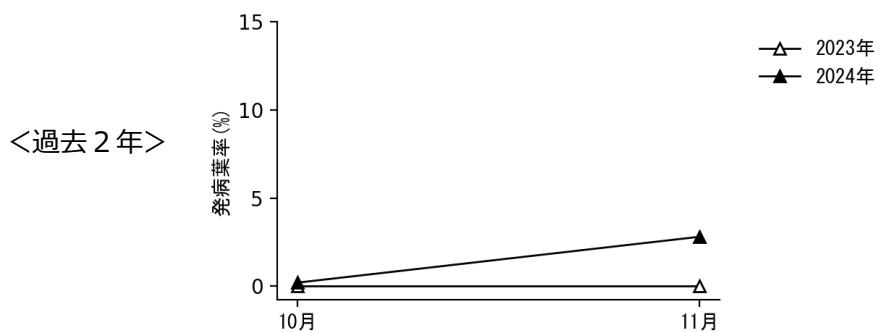
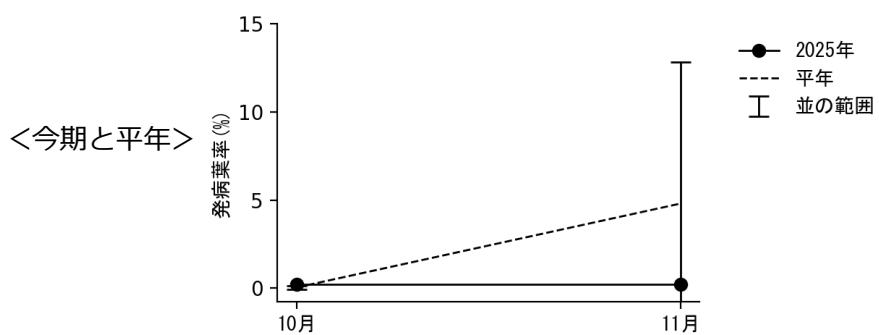


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	11 月の発生量（平年比）	並	
予 報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

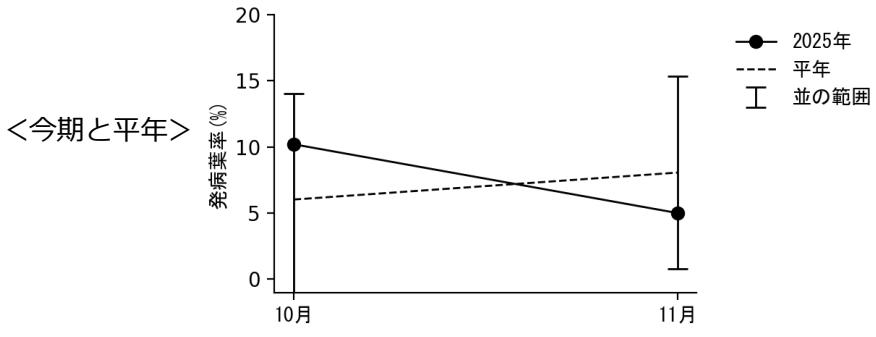
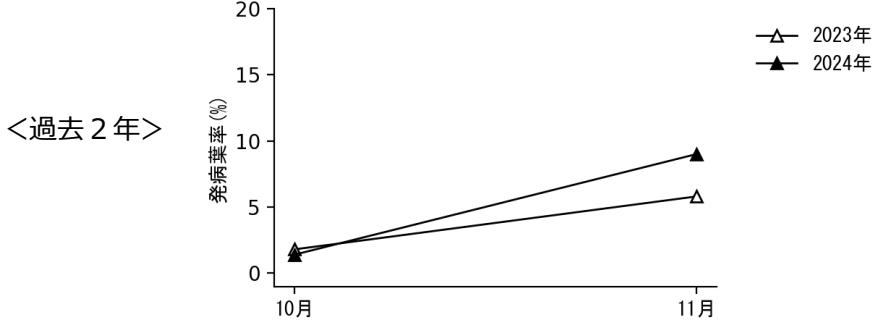
発病葉率の推移



- ・発生は場率20.0% (平年 : 31.4%)

防除のポイント

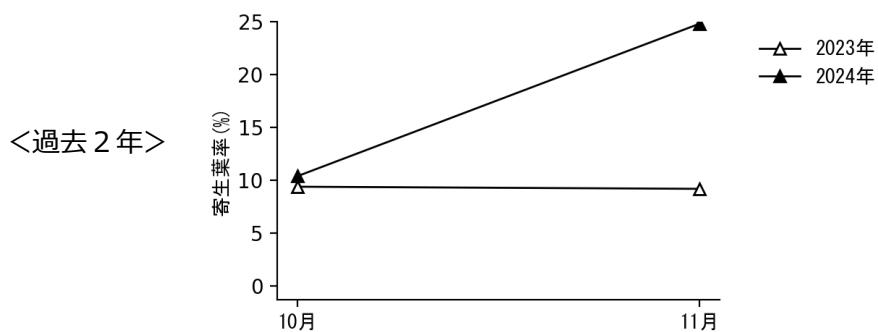
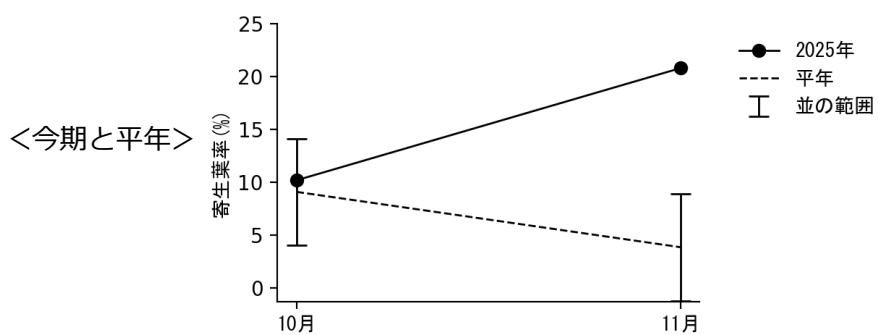
- ・着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・窒素質肥料の多用を避け、予防散布を行う。
- ・薬剤耐性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島									
病害虫名	斑点・褐斑細菌病											
調査結果	11 月の発生量（平年比）	並										
予報	11 月からの増減傾向	—										
	12 月の発生量（平年比）	—										
予報の根拠												
調査結果 発病葉率の推移												
 <p><今期と平年></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2025年 (%)</th> <th>平年 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月</td> <td>10</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>				月	2025年 (%)	平年 (%)	10月	10	6	11月	5	8
月	2025年 (%)	平年 (%)										
10月	10	6										
11月	5	8										
 <p><過去 2 年></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2023年 (%)</th> <th>2024年 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>6</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>				月	2023年 (%)	2024年 (%)	10月	2	2	11月	6	9
月	2023年 (%)	2024年 (%)										
10月	2	2										
11月	6	9										
<ul style="list-style-type: none"> ・発生は場率80.0%（平年：47.1%） 												
防除のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・強風による葉ずれ等の傷口から感染するため、防風垣（ソルゴーや防風ネット等）を設置する。 ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、強風降雨の後は薬剤散布を行う。 												

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	11 月の発生量（平年比）	多	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：トマトハモグリバエ
- ・発生は場率80.0%（平年：34.8%）

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・発生源となるほ場周辺の雑草除去に努める。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。

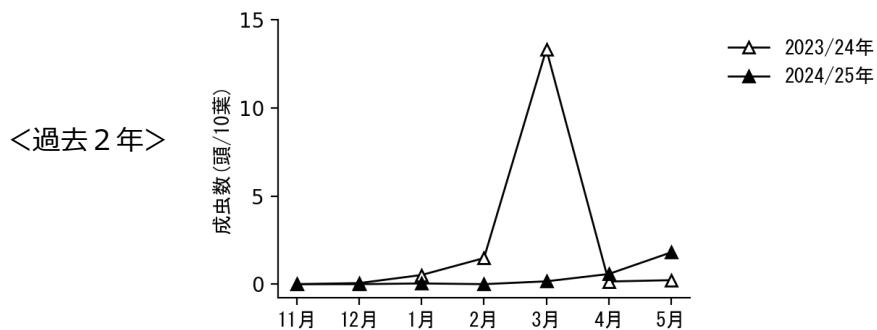
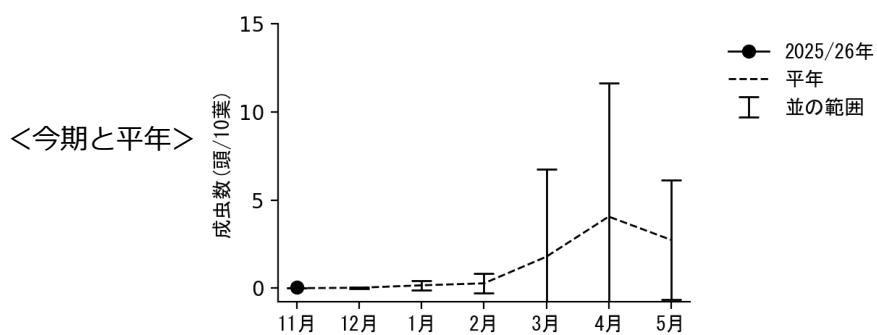
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	(1) タバココナジラミ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移



- ・発生施設率25.0% (平年 : 0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

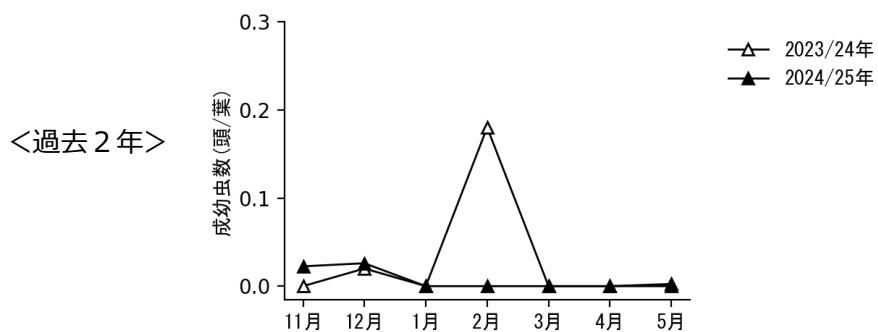
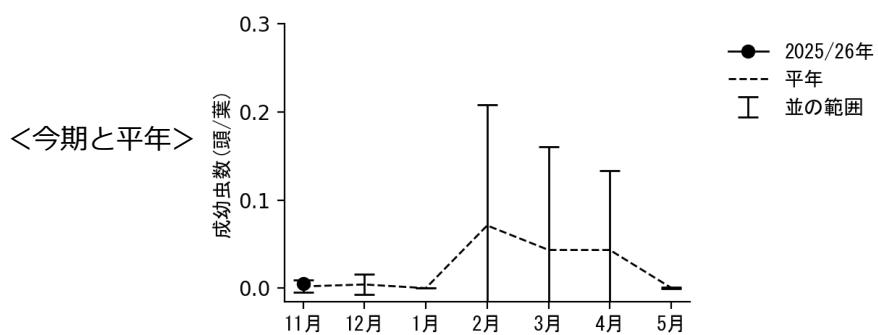


幼虫

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	(2) アブラムシ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成幼虫数の推移



・発生施設率25.0% (平年 : 2.2%)

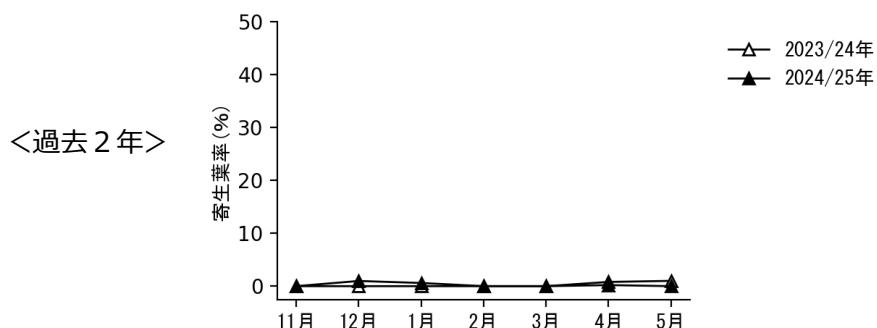
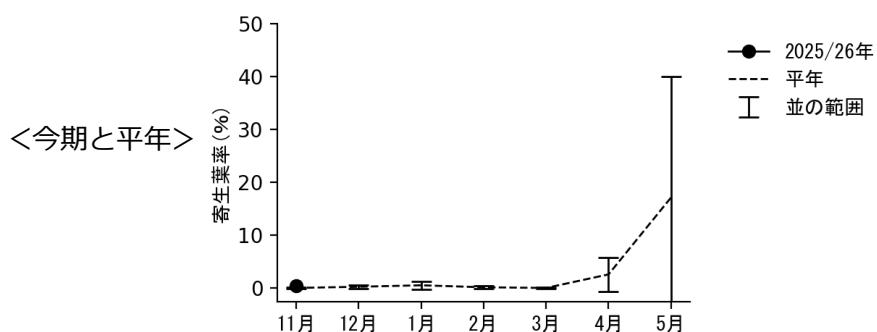
防除のポイント

- アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- 多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- 施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- 早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	(1) ハモグリバエ類			
調査結果	11月の発生量(平年比)	やや多		
予報	11月からの増減傾向	→		
	12月の発生量(平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移(→)		

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生施設率20.0% (平年: 3.4%)

防除のポイント

- ・発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。

幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)

